

最終試験の結果の要旨

神奈川歯科大学大学院歯学研究科 口腔科学講座 山本麗子に

対する最終試験は、主査 木本克彦 教授、副査 槻木恵一教授、

副査 青山典生 准教授により、論文内容ならびに関連事項につき口頭試問を

もって行われた。

その結果、合格と認めた。

主 査 木本 克彦 教授

副 査 槻木 恵一 教授

副 査 青山 典生 准教授

論 文 審 査 要 旨

実験的インプラント周囲炎における歯周組織の
微小循環の変化

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

口腔科学講座 山本 麗子

(指 導：松尾 雅斗 教授)

主 査 木本克彦 教授

副 査 槻木恵一 教授

副 査 青山典生 准教授

論文審査要旨

学位論文である『実験的インプラント周囲炎における歯周組織の微小循環の変化』は、インプラント周囲炎の詳細な病態を解明する目的で、実験的な炎症誘発後のインプラント周囲組織に生じる変化を、微小循環に焦点をあて観察・分析した論文である。歯科臨床においてインプラント治療が広く応用される中で、インプラント周囲炎の発症が大きな問題となっている。その原因として細菌感染や過剰な咬合圧により炎症が惹起されることが報告されているが、その詳細な病態は明らかにされていない。本研究は、インプラント周囲炎を人工的に誘発させた実験モデル動物を用いて、インプラント周囲組織の微小循環を形態学および生理学的に分析し、その病態を明らかにしておりその研究目的には新規性があり高く評価できる。実験にはビーグル犬を用い、全身麻酔下でスクリー型チタニウム製インプラントを即時埋入し、オッセオインテグレーション獲得後、歯頸部にデンタルフロスを重ねて巻くことで実験的インプラント周囲炎を惹起させている。その後灌流固定を行い組織切片の光学顕微鏡観察と血管鑄型標本の走査型電子顕微鏡観察を行っている。また同時にレーザードップラーフローメトリーによるインプラント周囲組織の血流量の測定も行っている。これらの方法は既存の方法に基づいた妥当なものであり、データ分析においても適切な統計手法が用いられている。

本審査委員会では、本研究により明確で適切な結論が導出されており、導かれた結果は今後のインプラント周囲炎に対する治療法や予防法の開発に寄与する基盤データになるとの結論に至った。

よって、本審査委員会は申請者が博士（歯学）の学位に十分値するものと認めた。